

平成27年2月12日

大阪の橋の由来について

2月は世界理解月間になります。手続要覧によりますと、この月間中は、クラブは世界の平和にとって国際理解と親善が最も重要で、不可欠なことであると認識して、そのために意義ある行動を計画するように求めています。つまり、世界平和の実現に向けロータリーは何ができるかを問い直す月間と言ってもよいでしょう。

本日は世界理解月間とは関係ありませんが、大阪の橋の由来についてお話ししたいと思いません。

商業の町といわれる大阪は、古くから「水の都」と呼ばれておりますように、大阪の町には、「浪速の八百八橋」と言われ、たくさんの橋が架かっています。

あの大阪のたくさんの橋は、国家権力によって架けられたもの、すなわち、お上の力によって架けられたものは一つもありません。すべて大阪の商人達が、自分達の地域社会は自分達で作ろうとって、民間の力によって橋を架けていったものなのであります。まさに、大阪の町は、民の力によって発展したのであります。

したがって、渡辺橋というのは、渡辺さんという人が架けた橋であろうと思います。淀屋橋というのは、今でも淀屋橋の近くにある淀屋さんが架けた橋であり、肥後橋は、肥後の国、熊本県出身の人が架けたものと思われまふ。このように、大阪の橋は、大阪商人達が自分の名か、あるいは自分にゆかりのある名前を付けていったのであります。

ところが、この中に、ただ一つ「心齋橋」という名の橋があります。なぜこのような名前を付けたのか、と言いますと、江戸時代に、鴻池又四郎ほか4人が相談して『懐徳堂』という論語塾を作りました。これは大阪商人三星屋武右衛門、道明寺屋吉左衛門、船橋屋四郎右衛門、備前屋吉兵衛、鴻池又四郎の5人が儒者中井 齋 庵と謀って彼らの師三宅石庵を学主(今でいう学長兼教授)に迎えたものであります。

元来、大阪というところは、有名な緒方洪庵の『適塾』ほか私塾の多いところでありました。この懐徳堂もその一つであります。大阪商人達が、毎晩仕事を終えてから、その論語塾に通い、孔子の教を学んだのであります。実は、このことが大阪商人達の商業道德すなわち、『職業倫理』の基本になっていると言われていふ。

そして、孔子が弟子に諭した言葉に、『仁の道は貧富に関わりなく存在する。先ず心を洗え』という言葉があります。大阪商人達がこの言葉に感動して、心を洗う、心を齋(つつし)む橋、と書いて、『心齋橋』と名付けたのであります。

要するに、大阪商人達が『懐徳堂』という論語塾で心を磨いた結果、その心が、一方では、社会奉仕的な現れとして、地域社会に橋を架けていったのであり、また一方では、職業奉仕的な現れとして、大阪商人の商業道德『職業倫理』を確立していったのであります。このことは、

橋を架けたり、職業倫理を確立するという奉仕の実践の前に、先ず懐徳堂という論語塾で心を磨く、奉仕の心を磨くことの重要性を物語るものであります。

実は、ロータリークラブは、懐徳堂のようにロータリアンが奉仕の心を磨くところなのであります。日本のロータリーの創始者米山梅吉翁が『ロータリーの例会は人生の道場である』とかっぱ喝破されたことは、まさにこのことを物語るものであります。

本日のお話は、深川純一先生の書籍から引用させていただきました。